

CubeSuite+ RL78ファミリ および 78K0R用 シミュレータご使用上のお願い

CubeSuite+ RL78ファミリ および 78K0R用シミュレータの使用上の注意事項を連絡します。

- RL78シミュレータ または 78K0Rシミュレータでブレークポイント設定時の注意事項

1. 該当製品

CubeSuite+ 共通部分 がV1.01.00以上である
製品版CubeSuite+ および 無償評価版CubeSuite+

上記に含まれるRL78シミュレータ および 78K0Rシミュレータが、次の問題に
該当します。

2. 内容

ROM容量が96 KB以上のRL78ファミリまたは78K0Rマイコンを使用時に、
該当製品でブレークポイントを設定すると、ブレークポイントの設定アドレス
以外のアドレスのデータが0xFFに変化する場合があります。

3. 発生条件

以下の条件を満たす場合に発生します。

- (1) プロセッサ・モード・レジスタ (PMC) の設定値が0x00の場合
ブレークポイントの設定アドレスが以下である。

- PMCLレジスタに0x01を設定した場合にミラー領域にミラーリング
されるコードフラッシュ領域のアドレス
例： RL78/G13グループ R5F101LG の場合

この場合、ブレイクポイントの設定アドレス - 0x10000 のアドレスのデータが0xFFに変化します。

(2) プロセッサ・モード・レジスタ (PMC) の設定値が0x01の場合
ブレイクポイントの設定アドレスが以下である。

- PMCREジスタに0x00を設定した場合にミラー領域にミラーリングされる
コードフラッシュ領域のアドレス

例： RL78/G13グループ R5F101LG の場合
0x03000~0x0CEFF

この場合、ブレイクポイントの設定アドレス + 0x10000 のアドレスのデータが0xFFに変化します。

問題が発生した場合、該当のブレイクポイントを削除した上でデバッグツールを切断し、再度デバッグツールへ接続すると、0xFFに変化したデータは元に戻ります。

なお、これらの問題はエミュレータデバッガでは発生しません。

4. 改修予定

CubeSuite+ 共通部分 の次期バージョン (2012年11月リリース予定) で改修する予定です。

リリースまでに対策が必要な場合は、以下のWeb問合せから連絡ください。

技術問合せ： <https://www.renesas.com/support/contact.html>

[免責事項]

過去のニュース内容は発行当時の情報をもとにしており、現時点では変更された情報や無効な情報が含まれている場合があります。ニュース本文中のURLを予告なしに変更または中止することがありますので、あらかじめご承知ください。